

F003 人文学入門（現代社会の諸問題に立ち向かうための哲学）

テーマ	F. いのちと人間を考える		
科目名	人文学入門（現代社会の諸問題に立ち向かうための哲学）		
略科目名	人文学入門		
英文科目名	An Introduction to Humanities: Philosophy and Contemporary Issues		
大学名	京都大学		
連絡先	文学研究科教務掛 TEL:075-753-2709 FAX:075-753-2719		
担当教員	佐金 武：京都大学文学部非常勤講師 呉羽 真：京都大学文学部非常勤講師 君嶋 泰明：京都産業大学全学共通教育センター非常勤講師 田中 一孝：京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教 児玉 聡：京都大学文学研究科准教授		
開講日程	2015年09月29日(火)～2016年01月19日(火) 3講時 12時40分～14時10分（毎週火曜日）		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	1-4回生		
会場	キャンパスプラザ京都		
授業定員	30	単位互換定員	30
試験・評価方法	平常点60点+レポート40点 (ただし、2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない。)		
超過時の選考方法	最大60名まで受講可能の見込み。先着順。		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	なし		
低回生受講推奨科目			

講義概要・到達目標

【講義概要】

哲学は今も昔も、複雑に絡み合った概念と論理のもつれを解きほぐすことによって深い真相に到達する努力を続けてきた。哲学に共通する目的は個々の問題の解決というよりもむしろ、真に有効な問いを立て物事の本質を見抜くことにある。その思考法や概念リソースは、あらゆる社会活動を支える「知的インフラ」の構築に利用可能である。現代の様々な問題を考察することを通じて、哲学の伝統において培われた知の有効性を実感するとともに、困難な時代をタフに生き抜く精神を涵養したい。

本講義では、複数の大学から新進気鋭の若手研究者をリレー形式で講師として招き、その指導のもと、現代社会の諸現象に潜む、様々な哲学的・倫理的問題を自ら考察することにより、錯綜した世の中を見通す批判的思考力（クリティカル・シンキングの技術）を身につけることを目指す。その際、学生による発表や質疑応答、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れ、哲学の思考法をより実践的に学ぶ。

【目標】

本講義の目的は、実践的な哲学的思考力を習得することにある。より具体的には、第1部において、自己の思考の分析を目標に、感性の言語化を試みる。第2部では、整理と比較、体系化を通じた深い理解を目標に、人間の活動における社会性について考察する。第3部では、批判力を養うことを目標に、他者を視野に入れることで自らの考えを捉え直す。そして第4部では、理由の探求を目標として、人生の意味について深く考える。

講義スケジュール

[1] イントロダクション (全員) :

人文学における哲学の位置付けと意義 (児玉)

哲学とはいかなる営みか (佐金)

第1部 : 感性を言語化する (田中)

[2] 利き酒はいかにして可能か?

[3] 芸術の価値ってなんだろう?

[4] 初音ミクに恋することは合理的か?

第2部 : 社会性を理解する (佐金)

[5] 人はなぜ笑うのか?

[6] 普遍的な価値は存在するか?

[7] 嘘は絶対に許されないのか?

第3部 : 他者を視野に入れる (呉羽)

[8] ロボットは思考できるか?

[9] 他人の気持ちは理解可能か?

[10] 肉食は悪いことなのか?

第4部 : 人生の意味を考える (君嶋)

[11] 運命の人はどう決まるか?

[12] 仕事とどう向き合うか?

[13] 幸福は人生の目的か?

[14] まとめ (全員)

[15] 哲学系科目におけるレポートライティングの基礎 (田中)

教科書

各授業で指定する。

参考書

必要な資料は配布する。